

たこ callus

戸原恵二

戸原内科



[略歴]

1978年 3月 佐賀県立佐賀西高等学校卒業
1985年 3月 福岡大学医学部卒業 5月 福岡大学第1内科入局
1991年 6月 福岡大学筑紫病院消化器科入局
2009年 4月 戸原内科

今は昔……。
大学病院にいた頃のこと。
毎月三百例は腹部超音波を執っていた。
研究課題のドブラ法はすべて担当した。
当時はフレーム不足でカクカク動いた。
肝腫瘍のドブラはエンドレスだった。
ゆえに日曜ドブラも多用した。
時に患者は眠りに落ちた。
静かな薄暗がりに流れる時間。
時おり聞こえる検者の静かな声。
無理もない。
今どきの明るい中での液晶で造影法ならあり得まい。
好きになれない液晶だけどバーチャル世代にうけるかな。

そんな頃……。
ふと気づくと右の薬指先の節に「たこ」ができていた。
医師風に言えば右第4指DIP関節の撓側の胼胝腫。
ここを駆使してできた「プローブだこ」だ。
「たこ」と言えば「ペンだこ」と「雀だこ」が有名だ。
偏見かな？
「ペンだこ」はパソコン化の時代の流れに消えた。
学生の頃盲牌できない私には「雀だこ」は憧れだった。
「プローブだこ」は職人技の象徴でお気に入りだった。

人間五十年……。
謡いながら舞う渡哲也の信長が頭に浮かぶ。
郷愁もあった。
くぎりの春に実家を継いだ。
麦秋の佐賀平野が迎えてくれた。
父を見て育った。
町医者が夢だった。
今では超音波を執っても月数十例。
エンドレスなドブラなどあるはずもない。
暇もて余す毎日だ。

時は経ち……。
ふと気づくと愛しの「プローブだこ」が消えていた。
わりとショックだった。
ぽっかりあいた穴。
とり戻せない青春。
ちょっと老けたが大学病院時代は青春時代そのもの。
でも青春時代にはないものも今では持っている。
それは安らぎである。